
シンポジウム2

慢性腎臓病の坂と雲～透析・CAPD・移植～

座 長 荒 木 元 朗（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学）
今 村 亮 一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器科学分野）

司会のことば

第75回西日本泌尿器科学会総会会長の愛媛大学泌尿器科学講座の雑賀隆史教授は本学会のテーマを「坂の上の雲」を目指して-新時代への夢と課題-とされました。“坂の上の雲”は司馬遼太郎著の歴史小説で明治維新を成功させ、近代国家として歩み出し、日露戦争勝利に至るまでの勃興期の明治日本を描いています。世界と日本のゆくえについて関心が高まっていた開化期の明治日本に、“開花期”の令和泌尿器科を重ね合わせて、“新時代への夢と課題”として、“坂の上のさらに向こう”を語るシンポジウムとなりました。

本シンポジウムでは下記の4人のエキスパートの先生方に“透析・CAPD・移植”の三つの観点から地方・大

都市、泌尿器科・腎臓内科、男性・女性と様々な立場・状況に応じてそれぞれの夢と課題についてご発表いただき非常に有意義なシンポジウムでした。

1. 腎不全外科医としての開化期
倉田 博基 長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科
2. 大阪大学における腎移植 ―ハイボリュームセンターを目指して―
中澤 成晃 大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学講座（泌尿器科学）
3. 島根大学泌尿器科の腎代替療法への関わり方
小池 千明 島根大学医学部 泌尿器科学講座
4. 腎臓内科医からみた腎不全医療
平野 一 大阪医科薬科大学 血液浄化センター